



研究だより

秋田県立秋田きらり支援学校

No.1 令和7年8月29日発行

【研究主題】 児童生徒の資質・能力の育成を目指す学習評価の在り方
～教師による学びの姿の見取りを基点とした授業改善を通して～（1年次/2か年）

子どもの内面に寄り添う“見取り”から始まる授業づくりをテーマに、日々の授業の中で子どもたちの姿を丁寧に見つめながら、よりよい授業づくりを目指していきます。子どもたちの表情やつぶやき、ちょっとした行動に目を向け、「今、何を感じ、どんなことを考えているのか」を大切に捉え、一人一人の気付きや成長を大事に、授業の中で見える「学びの姿」を授業の改善や支援に生かしていきたいと考えています。

これまでに行った、職員研修会の概要を紹介します。

【職員研修会】

- ・第1回 6月17日（火） 富山大学附属特別支援学校のDVD視聴
「学びあい」の場 教師の『子どもの見方』を豊かにする学びあい
- ・第2回 8月4日（月） 教師の「学びあい」を通じた子どもの内面の見取り
～「対話」を通じた個別最適な学びの探求～
講師 金沢星稜大学 柳川公三子 氏

子どもたちの“内面”や“学びの過程”をより深く理解するために、授業を見合い、意見を交換する方法について学びました。実際の授業の中の子どもの行動を題材にして、子どもの姿とその背景を話し合う「見取り」のワークショップを行いました。

【柳川先生の講話から】

「事実」と「解釈」を分けて捉える

子どもの表情・動き・つぶやきなどをそのまま事実としてとらえ、教師の思い込みや先入観を交えず、多角的に解釈する姿勢が大切。

複数の見方を重ねる「学び合い」

複数の教師で子どもの姿を共有し、異なる解釈を尊重し、多様な解釈を重ね合わせることで、子どもの本当の姿に近付ける。

「学びの過程」を重視し、授業改善につなげる

子どもが「どのように考え、学んだか」の見取りで得た気付きを基に授業を改善し、学びの過程を支える支援や環境づくりにつなげる。

「子どもの“つぶやき”や“ちょっとした行動”にも、たくさんの意味が隠れている」「なぜ、こんな行動をしたのか？」を考えることが、授業づくりのヒントになる」「子どもを見る“まなざし”が変わると、私たち教師の授業も変わる」「一人一人の見取りを、みんなで共有することで、子どもの学びをもっと豊かにできる」等のお話が印象に残りました。子どもの思いや考えに寄り添うためには、私たち教師自身が学び続ける姿勢をもつことが大切であるというお話をいただきました。

【参加した職員の声（一部紹介）】

- 子どもを“ありのまま”に見ることがいかに難しいか、そして大切かを実感した。
- 自分とは違う視点を持つ同僚の話が新鮮で、日々の見取りの参考になった。
- 子どもが本当に考えていることを想像しながら支援したいという思いが強まった。
- 子どもの何気ない行動に、このような深い意味があるのだと気付かされた。
- 普段の授業でも“事実”と“解釈”を分けて見取る視点を意識したいと思った。

学びの多い時間となりました。これからの授業づくりに生かしていきたいと思っています。